

古文書が語る「史実」と、今に続く「ご縁」を大切にする門中さん。現在は「田邊家中之会」の事務局や「田辺城まつり」の運営に携わり、歴史を正しく次世代へつなぐ活動に取り組んでいます。本物の歴史を「見える形」にすることで、郷土の誇りを育もうとするその姿を紹介します。

たなべ ちかぢゅうのかい
田邊家中之会
門中 雄一郎さん



歴史の深みにハマったきっかけ

子どもの頃からドラマやゲームを通して歴史に親しんできて、地元・舞鶴の歴史にも深く引き込まれました。

転機は二十代の頃。青年会議所の活動を通じて、郷土史家の人々と出会いました。そこで目にした娯楽としての歴史とは一線を画す、史実に基づく「本物の調査」の世界。その深みに、私は魅了されました。バラバラな歴史の断片が、調査によって一つにつながっていく。その手応えと正しい歴史をつなぎたいという思いから、試行錯誤の末に一冊の小冊子を作り上げました。この経験が今の私の原点となっています。

全国のお殿様との「出会い」

2018年に舞鶴で開催された「全国藩校サミット」で事務局長を務めたことも大きな転機です。サミットには、全国から約300人もの旧藩当主などが集結しました。あの大舞台の熱気に、本当に胸が



▲藩校サミット

でいます。特に劇のシナリオは歴史と登場人物のセリフの整合性を取ることにこだわっています。また「田邊家中之会」による「家中の行列」も実現させることができました。歴史を単なる知識で終わらせることなく、目に見える形にすることで、市民の郷土愛を育むきっかけになればと願っています。

田辺城まつりは今年、三十五回という節目を迎えます。今回は熊本から、細川家十九代の細川護光さんを特別ゲストにお迎えします。歴史を背負った人が加わることで、舞鶴の風景はより一層の輝きを増すと確信しています。あの日、古文書を前に感じた「つながる手応え」を胸に、これからも舞鶴の歴史と魅力を次世代へ発信し続けます。

歴史を見える形にして次世代へ



▲家中の行列の装いの田邊家中之会

現在は「田辺城まつり」の執行部として、祭りの振興に力を注いでいます。



地域医療の現状 [第1回] 知っていますか？小児医療の虎の巻

舞鶴市の地域医療の現状や取り組みをお伝えします。今回のテーマは「子どもの急な病気の対処法」です。

夜中に子どもが発熱、どうすればいいの？

子どもは、夜中に突然熱を出したり、吐いたりすることがよくあります。そんな時「どうしよう!」と不安になるかもしれませんが、まずは深呼吸をして落ち着きましょう。大人の不安は、子どもにも伝わります。まずは大人が冷静になることが、子どもの安心感につながります。そして、子どもの症状を落ち着いて観察し、病院を受診するなど、次の行動にうつりましょう。

かかりつけ医と小児救急電話相談

子どもの様子は幼いほど個人差が大きく、成長とともに変化していきます。まずは日頃から相談できる「かかりつけ医」を持ち、受診・相談しましょう。また子

どもの様子をよく観察し、体調の変化を記録しておきましょう。そして、病院の開いていない時に判断に迷った場合は、看護師や小児科医に電話で相談できる「小児救急電話相談 (#8000)」を利用してください。困ったときは、一人で悩まず専門家に相談しましょう。

日々の判断の参考にパンフレットの活用を

舞鶴市では、小児科医の監修のもと、急な病気の際に役立つパンフレットを作成しています。発熱や嘔吐など、症状ごとに注意すべきポイントをまとめています。「すぐに病院へ行くべきか」「翌日まで様子を見てもいいか」と迷ったときの判断基準に活用してください。

【配布場所】◆市役所

◆市内医療機関◆乳幼児健診会場◆市ホームページ(右コードからアクセス可)

《地域医療課》



時代とともに歩む舞鶴の近代化 [第5回] 大正の趣を伝える松尾寺駅舎

舞鶴市が都市として発展した近代に築かれた多くのインフラは、今も私たちの生活の中に息づいています。このシリーズでは、市内に残る貴重な舞鶴の近代化遺産にスポットを当てて紹介します。

大正11年誕生、国登録文化財の駅舎

今から104年前の大正11年に建てられた松尾寺駅。その駅舎は、戦前の貴重な木造駅舎の一つであり、舞鶴の歴史的景観の核となる建物として「国登録有形文化財」に登録されています。

この駅舎が誕生した背景には、舞鶴への海軍鎮守府の設置がありました。明治37年に鉄道が開通したことで舞鶴は飛躍的に発展を遂げ、続いて日本海側の拠点である舞鶴と敦賀を結ぶ「小浜線」の建設が望まれました。大正4年に着工した小浜線において、古くから信仰を集める西国三十三所29番札所松尾寺への玄関口として設置されたのが、この松尾寺駅です。

にぎわいの記憶と未来への継承

駅名の由来である松尾寺は、毎年5月8日に行われる「仏舞」(国指定重要無形民俗文化財)で知られています。かつては、この仏舞に合わせて臨時列車が運行されるほど、駅舎は多くの参拝客でにぎわいました。

長年、地域の交通を支えてきた松尾寺駅舎。現在は建物の一部がカフェとして活用されるなど、新しい憩いの場として、地域の人々に大切に引き継がれています。《歴史文化まちづくり課》

